

# 146 虚空蔵こくぞうのろし台だいあと跡



虚空蔵菩薩像



虚空蔵のろし台跡

指 定 市 史 跡 昭和25年12月 1 日  
 所在地 矢 島  
 所有者 八 幡 神 社



甲斐から佐久へ侵入した武田軍は、佐久を制圧すると、村上氏の勢力を追って小県へ進出し、さらに川中島へ歩を進めて越後の上杉軍と対峙した。他方、佐久を中継基地として上州へも軍を進めた。このように戦線が拡大すると、敵の侵入などを急いで知らせる連絡網が必要になる。このために要所要所に設けられたのが、「のろし台」で、つぎつぎにのろしをあげて甲府と連絡をとった。

信州には、こうしたのろし台が各地に設けられたが、その一つといわれるのが、矢島城跡の西北950mに位置する、標高771.8mの虚空蔵山頂で、明治11年（1878）の矢島村誌に、

〔虚空蔵城跡〕官有に属す。戌の方10町にあり。東西15間、南北20間、周囲土塁あり。山脈蓼科山より、西は布施村に界す。里俗云う、武田信玄の烽火台なりと。虚空蔵の古石像あり。とある（『長野県町村誌』東信篇。ちなみに、ここが武田氏ののろし台跡と見られていたことは、布施村誌にも記されている）。ここに記されているように、山頂は東西約27m、南北約36mの平坦地で、周囲には土塁がめぐらされている。また、のろしをあげるさいに使われたと思われる石台も残っている。なお、どのような由来かはわからないが、虚空蔵菩薩像（石像）も祀られている。

こののろし台は、根岸の虚空蔵のろし台と、望月城とを中継するのろし台として設けられたものと考えられている。